

平成 25 年 11 月 25 日
みどり生命保険株式会社

平成 25 年度第 2 四半期業績のお知らせ

みどり生命保険株式会社の平成 25 年度第 2 四半期の業績につき、別紙のとおりお知らせいたします。

主要業績指標	平成 25 年度第 2 四半期
契約高	
保有契約高	93,701 百万円
新契約高	11,005 百万円
年換算保険料	
保有契約	3,968 百万円
新契約	531 百万円
保険料等収入	2,287 百万円
事業費	419 百万円
第 2 四半期純利益	240 百万円
総資産	19,922 百万円
基礎利益	361 百万円
ソルベンシー・マージン比率	9,677.2%

なお、証券化商品等への投資およびサブプライム関連投資について該当事項はございませんので、あわせてお知らせいたします。

以上

お問い合わせは、次にお願いたします。

東京都北区王子 6-3-43
みどり生命保険株式会社
TEL : 03-5902-3955 (総務部)

平成 25 年度第 2 四半期(上半期)報告

みどり生命（社長：齋藤 秀市）の平成 25 年度第 2 四半期(上半期)の業績は添付のとおりです。

※資料中、「第 2 四半期（上半期）」は「4 月 1 日～9 月 30 日」を、「第 2 四半期会計期間」は「7 月 1 日～9 月 30 日」を表しております。

<目次>

1. 主要業績	…… 1 頁
2. 一般勘定資産の運用状況	…… 3 頁
3. 資産運用の実績（一般勘定）	…… 4 頁
4. 中間貸借対照表	…… 8 頁
5. 中間損益計算書	……12 頁
6. 中間株主資本等変動計算書	……14 頁
7. 経常利益等の明細（基礎利益）	……17 頁
8. 債務者区分による債権の状況	……18 頁
9. リスク管理債権の状況	……18 頁
10. ソルベンシー・マージン比率	……19 頁
11. 特別勘定の状況	……20 頁
12. 保険会社及びその子会社等の状況	……20 頁

以 上

1. 主要業績

(1) 保有契約高及び新契約高

・保有契約高

(単位：千件、百万円、%)

区 分	平成24年度末		平成25年度 第2四半期(上半期)末			
	件 数	金 額	件 数	金 額		
				前年度 末比	前年度 末比	
個人保険	147	87,493	157	107.2	93,701	107.1
個人年金保険	—	—	—	—	—	—
団体保険	—	—	—	—	—	—
団体年金保険	—	—	—	—	—	—

・新契約高

(単位：千件、百万円、%)

区分	平成24年度 第2四半期(上半期)				平成25年度 第2四半期(上半期)					
	件 数	金 額			件 数	金 額				
		新契約	転換による 純増加			前年 同期比	前年 同期比	新契約	転換による 純増加	
個 人 保 険	21	14,625	14,625	—	17	81.4	11,005	75.3	11,005	—
個人年金保険	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
団 体 保 険	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
団体年金保険	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(2) 年換算保険料

・保有契約

(単位：百万円、%)

区 分	平成24年度末	平成25年度 第2四半期 (上半期)末	
			前年度 末比
個人保険	3,605	3,968	110.1
個人年金保険	—	—	—
合 計	3,605	3,968	110.1
うち医療保障・ 生前給付保障等	—	—	—

・新契約

(単位：百万円、%)

区 分	平成24年度 第2四半期(上半期)	平成25年度 第2四半期(上半期)	
			前年 同期比
個人保険	624	531	85.0
個人年金保険	—	—	—
合 計	624	531	85.0
うち医療保障・ 生前給付保障等	—	—	—

(注) 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です(一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額)。

(3) 主要収支項目

(単位：百万円、%)

区 分	平成24年度 第2四半期(上半期)	平成25年度 第2四半期(上半期)	
			前年 同期比
保険料等収入	2,318	2,287	98.6
資産運用収益	172	159	92.6
保険金等支払金	74	157	211.9
資産運用費用	54	52	96.4

(4) 総資産

(単位：百万円、%)

区 分	平成24年度末	平成25年度 第2四半期 (上半期)末	
			前年度 末比
総 資 産	18,282	19,922	109.0

2. 一般勘定資産の運用状況

(1) 運用環境

平成 25 年 7-9 月期実質 GDP は、前期比 0.5%（年率換算では 1.9%）と 4 四半期連続のプラス成長となりました。順調な景気回復が続いていますが、ただ、年率 4%前後の成長が続いた直近 2 四半期からは大きく減速しました。これは、これまで貢献した個人消費の増勢が鈍り、輸出も減少したことなどによります。しかし、先行きの 10-12 月期は、消費増税前の駆け込み需要や設備投資の回復で再加速することが予想されています。

国内金利（10 年国債利回り）は、4 月の金融緩和直後に、0.315%と過去最低を記録した後、乱高下を繰り返し、5 月下旬には 1.0%まで上昇しました。しかし、その後は新規発行のほぼ 7 割に当たる国債購入をするという日銀の「異次元緩和」の効果がじわりと浸透したことにより、長期金利は低下傾向となり、9 月末には 0.68%となりました。

(2) 運用方針

現況の 1%を下回る金利水準において、債券投資を積極的に行うと、今後の金利上昇リスクが大きいと予想されます。現在のところ当社では、資本金の運用が主体になっていますので、安全性を重視し債券投資による金利上昇リスクを回避するため、9 月末では現・預金に 123 億円と大きく積み上げています。

ただ、安全性だけでなく収益性の向上を図るために、ポートフォリオの多様化も進めています。、9 月末では特定金銭信託 5 億円、貸付 4.3 億円、国債 40 億円、社債 2 億円、不動産投資 19 億円に分散投資をしています。

(3) 運用実績の概況

資産運用関係収益は、預金、有価証券、貸付のインカム収入が 55 百万円、特金の収益が 4 百万円、不動産賃貸収入 99 百万円等の計 159 百万円となりました。

資産運用関係費用は、不動産関係の諸費用 32 百万円、不動産減価償却費 18 百万円等々で、計 52 百万円となりました。

その結果、資産運用収支残高は 107 百万円となりました。

3. 資産運用の実績（一般勘定）

(1) 資産の構成

（単位：百万円、％）

区 分	平成24年度末		平成25年度 第2四半期（上半期）末	
	金 額	占 率	金 額	占 率
現 預 金・コ ー ル ロ ー ン	10,683	58.4	12,353	62.0
買 現 先 勘 定	—	—	—	—
債 券 貸 借 取 引 支 払 保 証 金	—	—	—	—
買 入 金 銭 債 権	—	—	—	—
商 品 有 価 証 券	—	—	—	—
金 銭 の 信 託	500	2.7	500	2.5
有 価 証 券	4,234	23.2	4,227	21.2
公 社 債	4,034	22.1	4,027	20.2
株 式	—	—	—	—
外 国 証 券	—	—	—	—
公 社 債	—	—	—	—
株 式 等	—	—	—	—
そ の 他 の 証 券	200	1.1	200	1.0
貸 付 金	430	2.4	430	2.2
不 動 産	1,915	10.5	1,896	9.5
繰 延 税 金 資 産	12	0.1	12	0.1
そ の 他	516	2.8	512	2.6
貸 倒 引 当 金	△9	△0.1	△10	△0.1
合 計	18,282	100.0	19,922	100.0
う ち 外 貨 建 資 産	—	—	—	—

（注）不動産については土地・建物・建設仮勘定を合計した金額を計上しております。

(2) 資産の増減

（単位：百万円）

区 分	平成24年度 第2四半期（上半期）	平成25年度 第2四半期（上半期）
現 預 金・コ ー ル ロ ー ン	1,670	3,910
買 現 先 勘 定	—	—
債 券 貸 借 取 引 支 払 保 証 金	—	—
買 入 金 銭 債 権	—	—
商 品 有 価 証 券	—	—
金 銭 の 信 託	17	△18
有 価 証 券	△6	△13
公 社 債	△6	△13
株 式	—	—
外 国 証 券	—	—
公 社 債	—	—
株 式 等	—	—
そ の 他 の 証 券	—	—
貸 付 金	—	—
不 動 産	△20	△39
繰 延 税 金 資 産	0	△7
そ の 他	81	21
貸 倒 引 当 金	△0	△3
合 計	1,740	3,847
う ち 外 貨 建 資 産	—	—

（注）不動産については土地・建物・建設仮勘定を合計した金額を計上しております。

(3) 資産運用収益

(単位：百万円)

区 分	平成24年度 第2四半期（上半期）	平成25年度 第2四半期（上半期）
利息及び配当金等収入	155	155
預貯金利息	6	6
有価証券利息・配当金	30	30
貸付金利息	13	12
不動産賃貸料	99	99
その他利息配当金	6	6
商品有価証券運用益	—	—
金銭の信託運用益	17	4
売買目的有価証券運用益	—	—
有価証券売却益	—	—
国債等債券売却益	—	—
株式等売却益	—	—
外国証券売却益	—	—
その他	—	—
有価証券償還益	—	—
金融派生商品収益	—	—
為替差益	—	—
その他運用収益	—	—
合 計	172	159

(4) 資産運用費用

(単位：百万円)

区 分	平成24年度 第2四半期（上半期）	平成25年度 第2四半期（上半期）
支払利息	—	0
商品有価証券運用損	—	—
金銭の信託運用損	—	—
売買目的有価証券運用損	—	—
有価証券売却損	—	—
国債等債券売却損	—	—
株式等売却損	—	—
外国証券売却損	—	—
その他	—	—
有価証券評価損	—	—
国債等債券評価損	—	—
株式等評価損	—	—
外国証券評価損	—	—
その他	—	—
有価証券償還損	—	—
金融派生商品費用	—	—
為替差損	—	—
貸倒引当金繰入額	0	1
貸付金償却	—	—
賃貸用不動産等減価償却費	21	18
その他運用費用	32	32
合 計	54	52

(5) 売買目的有価証券の評価損益

該当事項がないため記載を省略しております。

(6) 有価証券の時価情報（売買目的有価証券以外の有価証券のうち時価のあるもの）

（単位：百万円）

区 分	平成24年度末					平成25年度第2四半期（上半期）末				
	帳簿価額	時 価	差損益			帳簿価額	時 価	差損益		
			差 益	差 損	差 益			差 損		
満期保有目的の債券	4,034	4,383	349	349	—	4,027	4,334	306	306	—
責任準備金対応債券	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
子会社・関連会社株式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の有価証券	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
公 社 債	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株 式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外 国 証 券	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
公 社 債	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株 式 等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の証券	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
買入金銭債権	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
そ の 他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	4,034	4,383	349	349	—	4,027	4,334	306	306	—
公 社 債	4,034	4,383	349	349	—	4,027	4,334	306	306	—
株 式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外 国 証 券	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
公 社 債	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株 式 等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の証券	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
買入金銭債権	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
そ の 他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

・時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券の帳簿価額は以下のとおりです。

（単位：百万円）

区 分	平成24年度末	平成25年度 第2四半期（上半期）末
満期保有目的の債券	—	—
非上場外国債券	—	—
そ の 他	—	—
責任準備金対応債券	—	—
子会社・関連会社株式	—	—
その他の有価証券	200	200
非上場国内株式（店頭売買株式を除く）	—	—
非上場外国株式（店頭売買株式を除く）	—	—
非上場外国債券	—	—
その他	200	200
合 計	200	200

(7) 金銭の信託の時価情報

(単位：百万円)

区 分	平成24年度末					平成25年度第2四半期(上半期)末				
	貸借対照表計上額	時 価	差損益			貸借対照表計上額	時 価	差損益		
			差 益	差 損	差 益			差 損		
金銭の信託	500	500	0	0	—	500	500	—	—	—

・運用目的の金銭の信託

(単位：百万円)

区 分	平成24年度末		平成25年度第2四半期(上半期)末	
	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価損益	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価損益
運用目的の金銭の信託	500	0	500	—

- ・満期保有目的、責任準備金対応、その他の金銭の信託
該当事項がないため記載を省略しております。

4. 中間貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別	平成25年度 第2四半期会計期間末 (平成25年9月30日現在)	平成24年度末 要約貸借対照表 (平成25年3月31日現在)
		金額	金額
(資産の部)			
現金及び預貯金		12,353	10,683
金銭の信託		500	500
有価証券		4,227	4,234
(うち国債)		(4,027)	(4,034)
(うちその他の証券)		(200)	(200)
貸付金		430	430
有形固定資産		1,914	1,919
無形固定資産		54	49
代理店貸		4	4
その他資産		435	458
繰延税金資産		12	12
貸倒引当金		△10	△9
資産の部合計		19,922	18,282
(負債の部)			
保険契約準備金		8,695	7,246
支払準備金		35	31
責任準備金		8,660	7,214
代理店借		23	2
その他負債		313	381
未払法人税等		121	198
その他の負債		192	183
退職給付引当金		0	0
その他の引当金		1	4
価格変動準備金		1	1
負債の部合計		9,035	7,636
(純資産の部)			
資本金		10,000	10,000
利益剰余金		886	646
その他利益剰余金		886	646
繰越利益剰余金		886	646
株主資本合計		10,886	10,646
純資産の部合計		10,886	10,646
負債及び純資産の部合計		19,922	18,282

注記事項

(貸借対照表関係)

1. 会計方針に関する事項

(1) 有価証券及び金銭の信託の評価基準及び評価方法

有価証券（現金及び預貯金・買入金銭債権のうち有価証券に準じるもの及び金銭の信託において信託財産として運用している有価証券を含む）の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、その他有価証券のうち時価のあるものについては9月末日の市場価格等に基づく時価法（売却原価の算定は移動平均法）、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法によっております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

(2) 有形固定資産の減価償却の方法

有形固定資産の減価償却は定率法によっております。ただし、建物（建物附属設備を除く）については定額法によっております。また、主な耐用年数は建物、建物附属設備及び構築物 2～41年、車両及び什器備品 2～20年であり、その他の有形固定資産のうち取得価額が10万円以上20万円未満のものについては、3年間で均等償却を行っております。

(3) 無形固定資産の減価償却の方法

無形固定資産の減価償却は定額法によっております。なお、ソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法により償却しております。

(4) 貸倒引当金の計上方法

債権等の貸倒による損失に備えるため、一般貸付金について経営上用いている合理的な貸倒見積額を計上しております。また、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(5) 賞与引当金の計上方法

賞与引当金は従業員に対する賞与の支給に充てるため、支給見込額基準に基づき計上しております。

(6) 退職給付引当金の計上方法

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、退職給付に係る会計基準（「退職給付に係る会計基準の改定に関する意見書」平成10年6月16日企業会計審議会）に基づき、当中間期末において発生したと認められる額を計上しております。

(7) 価格変動準備金の計上方法

価格変動準備金は、保険業法第115条の規定に基づき算出した額を計上しております。

(8) リース取引の処理方法

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(9) その他採用した重要な会計方針

① 消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、資産に係る控除対象外消費税のうち、税法に定める繰延消費税等については、前払費用に計上し、5年間で均等償却し、繰延消費税等以外のものについては、発生年度に費用処理しております。

② 責任準備金の積立方法

責任準備金は、保険業法第116条の規定に基づく準備金であり、保険料積立金については次の方式により計算しております。

・標準責任準備金の対象契約については金融庁長官が定める方式（平成8年大蔵省告示第48号）

- 有形固定資産の減価償却累計額は245百万円であります。
- 関係会社に対する、金銭債権の総額は6百万円、金銭債務の総額は52百万円であります。
- その他の引当金の内訳は、賞与引当金1百万円であります。
- 当社は本社オフィス等の不動産賃貸契約に基づき、オフィスの退去時における原状回復に係る債務を有しております。しかし、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確ではなく、将来本社等を移転する予定もないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができないため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。
- 保険業法第259条の規定に基づく生命保険契約者保護機構に対する当中間期末における当社の今後の負担見積額は34百万円であります。なお、当該負担金は抛出した年度の事業費として処理しております。
- 1株当たりの純資産額は54,434円82銭であります。
- 金額は、記載単位未満を切り捨てて表示しております。

注記事項

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

保険業法第118条第1項に規定する特別勘定以外の勘定である一般勘定の資産運用は、安全性と収益性を勘案しつつ極力リスクを抑えた運用をしております。この方針に基づき、当社が保有する金融商品は国債、金銭信託、特定社債及び貸付金であります。

有価証券は市場リスク及び信用リスクに晒されております。しかし、現在当社が保有する有価証券の90%以上が満期保有の国債であり、市場リスクは小さく信用リスクはありません。

貸付金は特定目的会社向けの一般貸付で、貸付金の契約の不履行によってもたらされる信用リスクに晒されておりますが、不動産担保を十分に確保することによって信用リスクを軽減させております。

金銭信託については、市場リスクを軽減するためキャッシュ残高を極力多く確保し、含み損の状況にならないようにリスク管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

主な金融資産及び金銭負債にかかる貸借対照表計上額、時価及びこれらの差異については、次の通りであります。

(単位：百万円)

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預貯金	12,353	12,353	-
(2) 未収金	331	331	-
(3) 金銭の信託	500	500	-
(4) 有価証券			
満期保有目的の債券	4,027	4,334	306
(5) 貸付金	430	555	-
貸倒引当金(※1)	△4	-	-
	425	555	129
資産計	17,637	18,073	436

(※1) 貸付金に対する貸倒引当金を控除しております。

(注) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

1 現金及び預貯金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

2 未収金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

3 金銭の信託

当社の金銭信託は現預金、コールローン、並びに債券のみによって構成されております。現預金については当該帳簿価額によっております。債券については、(注)4有価証券と同様の方法によっております。コールローンについては、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。なお、取得原価、貸借対照表計上額及びこれらの差額は、次の通りであります。

(単位：百万円)

種類	取得原価	貸借対照表計上額	差額
金銭信託	500	500	0

4 有価証券

有価証券(預貯金・買入金銭債権のうち「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号)に基づく有価証券として取り扱うもの及び金銭の信託において信託財産として運用している有価証券を含む)、満期保有目的の債券は9月末日の市場価額等によっております。なお、特定社債については市場がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、有価証券に含めておりません。当該特定社債の当中間期末における貸借対照表価額は、200百万円であります。

5 貸付金

一般貸付のうち、固定金利貸付の時価については、主に、将来キャッシュ・フローを現在価値へ割り引いた価格によっております。

注記事項

(賃貸等不動産)

当社では、京都府その他の地域において、賃貸用不動産を有しております。当中間期末における当該賃貸等不動産の貸借対照表計上額、当中間会計期間増減額及び時価は、次の通りであります。

(単位：百万円)

貸借対照表計上額			中間貸借対照表日における時価
当期首残高	当中間会計期間増減額	当中間会計期末残高	
1,910	△18	1,891	1,942

- (注) 1 貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。
2 中間貸借対照表日における時価は、土地については地価公示法第6条に規定する標準地に合理的な調整を行って算定した結果、建物については取得原価から減価償却累計額を控除した金額によっております。

5. 中間損益計算書

(単位：百万円)

科 目	期 別	平成 24 年度	平成 25 年度
		第 2 四半期累計期間 〔平成 24 年 4 月 1 日から 平成 24 年 9 月 30 日まで〕	第 2 四半期累計期間 〔平成 25 年 4 月 1 日から 平成 25 年 9 月 30 日まで〕
		金 額	金 額
経 常 収 益		2,579	2,491
保 険 料 等 収 入		2,318	2,287
(うち保険料)	(2,318)	(2,287)
資 産 運 用 収 益		172	159
(うち利息及び配当金等収入)	(155)	(155)
(うち金銭の信託運用益)	(17)	(4)
(うちその他運用収益)	(—)	(—)
そ の 他 経 常 収 益		88	44
経 常 費 用		2,317	2,127
保 険 金 等 支 払 金		74	157
(うち保険金)	(19)	(42)
(うち給付金)	(17)	(22)
(うち解約返戻金)	(36)	(90)
(うちその他返戻金)	(0)	(1)
責 任 準 備 金 等 繰 入 額		1,564	1,449
支 払 備 金 繰 入 額		—	4
責 任 準 備 金 繰 入 額		1,564	1,445
資 産 運 用 費 用		54	52
事 業 費 用		541	419
そ の 他 経 常 費 用		82	49
経 常 利 益		261	363
特 別 利 益		—	—
特 別 損 失		0	0
価 格 変 動 準 備 金 繰 入 額		0	0
税 引 前 中 間 純 利 益		261	363
法 人 税 及 び 住 民 税		87	122
法 人 税 等 合 計		87	122
中 間 純 利 益		174	240

注記事項

(損益計算書関係)

1. 関係会社との取引による収益の総額は26百万円、費用の総額は37百万円であります。
2. 1株当たり当中間期純利益の金額は1,204円22銭であります。
3. 「その他経常収益」中における「その他の経常収益」の主な内訳は、全日本みどり共済会及び新日本みどり共済会と締結した業務及び財産の管理の委託契約に基づく管理受託料43百万円であります。
4. 関連当事者との取引は次の通りであります。

(単位：百万円)

属性	会社等の名称	議決権等の所有割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
主要株主(会社等)	株式会社ベルコ	被所有50%	保険金等の支払	葬儀施行費用への充当	28	未払金	2
			航空券の購入手配	航空券の購入(注)1	3	未払費用	0
			不動産賃貸借契約の締結	不動産賃借(注)1	0	—	—
	株式会社互助センター友の会	被所有50%	保険金等の支払	葬儀施行費用への充当	1	未払金	—
			不動産賃貸借契約の締結	不動産賃借(注)1	26	前受収益	4
				不動産賃借(注)1	3	預り保証金 敷金差入保証金	44 6
主要株主(会社等)及び役員が議決権の過半数を所有している会社等	株式会社セレマ(注)2	なし	保険金等の支払	葬儀施行費用への充当	14	未払金	0
			不動産賃貸借契約の締結	不動産賃借(注)1	72	預り保証金	71
			出向者派遣契約の締結	受入出向者労務費の支払(注)3	10	未払費用	1
役員が過半数の出資をしている団体	全日本みどり共済会	なし	業務及び財産の管理の委託の締結	管理受託料の受取(注)4	20	未収金	2
	新日本みどり共済会		業務及び財産の管理の委託の締結	管理受託料の受取(注)4	23	未収金	3

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 1 価格その他の取引条件は、価格交渉の上、一般取引条件と同様に決定しております。

2 当社の主要株主及び当社役員が議決権の84.29%を保有しております。

3 受入出向者の労務費は出向元の従業員の給与水準及び出向従業員の給与支給額を勘案し、両者協議の上決定しております。

4 管理受託料については、両者合意の上、料率を合理的に決定しております。

5 取引金額には消費税が含まれておらず、期末残高には消費税が含まれております。

6 中間会計期間における税金費用につきましては、簡便法により計算しているため、法人税等調整額は「法人税及び住民税」に含めて表示しております。

金額は、記載単位未満を切り捨てて表示しております。

6. 中間株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

科 目	平成24年度 中間会計期間 〔平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで〕	平成25年度 中間会計期間 〔平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで〕
	株主資本	
資本金		
当期首残高	10,000	10,000
当中間期変動額		
当中間期変動額合計	—	—
当中間期末残高	10,000	10,000
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	—	—
当中間期変動額		
当中間期変動額合計	—	—
当中間期末残高	—	—
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		
当期首残高	165	646
当中間期変動額		
中間純利益	174	240
当中間期変動額合計	174	240
当中間期末残高	339	886
利益剰余金合計		
当期首残高	165	646
当中間期変動額		
中間純利益	174	240
当中間期変動額合計	174	240
当中間期末残高	339	886
株主資本合計		
当期首残高	10,165	10,646
当中間期変動額		
中間純利益	174	240
当中間期変動額合計	174	240
当中間期末残高	10,339	10,886
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	—	—
当中間期変動額		
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	—	—
当中間期変動額合計	—	—
当中間期末残高	—	—

評価・換算差額等合計		
当期首残高	—	—
当中間期変動額		
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	—	—
当中間期変動額合計	—	—
当中間期末残高	—	—
純資産合計		
当期首残高	10,165	10,646
当中間期変動額		
中間純利益	174	240
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	—	—
当中間期変動額合計	174	240
当中間期末残高	10,339	10,886

注記事項

(株主資本等変動計算書関係)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

(単位：千株)

	当期首 株式数	当期増加 株式数	当期減少 株式数	当中間会計 期間末株式数
発行済株式				
普通株式	200	—	—	200
合計	200	—	—	200

2. 金額は、記載単位未満を切り捨てて表示しております。

7. 経常利益等の明細（基礎利益）

（単位：百万円）

	平成24年度 第2四半期（上半期）	平成25年度 第2四半期（上半期）
基礎利益 A	247	361
キャピタル収益	17	4
金銭の信託運用益	17	4
売買目的有価証券運用益	—	—
有価証券売却益	—	—
金融派生商品収益	—	—
為替差益	—	—
その他キャピタル収益	—	—
キャピタル費用	—	—
金銭の信託運用損	—	—
売買目的有価証券運用損	—	—
有価証券売却損	—	—
有価証券評価損	—	—
金融派生商品費用	—	—
為替差損	—	—
その他キャピタル費用	—	—
キャピタル損益 B	17	4
キャピタル損益含み基礎利益 A+B	264	365
臨時収益	—	—
再保険収入	—	—
危険準備金戻入額	—	—
個別貸倒引当金戻入額	—	—
その他臨時収益	—	—
臨時費用	3	2
再保険料	—	—
危険準備金繰入額	3	2
個別貸倒引当金繰入額	—	—
特定海外債権引当勘定繰入額	—	—
貸付金償却	—	—
その他臨時費用	—	—
臨時損益 C	△3	△2
経常利益 A+B+C	261	363

8. 債務者区分による債権の状況

(単位：百万円、%)

区 分	平成24年度末	平成25年度 第2四半期(上半期)末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	—	—
危険債権	—	—
要管理債権	—	—
小計 (対合計比)	(—)	(—)
正常債権	430	430
合計	430	430

- (注) 1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始又は再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
2. 危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。
3. 要管理債権とは、3か月以上延滞貸付金及び条件緩和貸付金です。なお、3か月以上延滞貸付金とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸付金(注1及び2に掲げる債権を除く。)、条件緩和貸付金とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸付金(注1及び2に掲げる債権並びに3か月以上延滞貸付金を除く。)です。
4. 正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、注1から3までに掲げる債権以外のものに区分される債権です。

9. リスク管理債権の状況

該当事項がないため記載を省略しております。

10. ソルベンシー・マージン比率

(単位：百万円)

項 目	平成24年度末	平成25年度 第2四半期 (上半期)末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	13,874	14,325
資本金等	10,642	10,885
価格変動準備金	1	1
危険準備金	15	17
一般貸倒引当金	4	4
その他有価証券の評価差額×90% (マイナスの場合100%)	—	—
土地の含み損益×85% (マイナスの場合100%)	43	43
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	2,880	2,978
負債性資本調達手段等	—	—
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	—	—
持込資本金等	—	—
控除項目	—	—
その他	287	394
リスクの合計額		
$\sqrt{(R_1 + R_8)^2 + (R_2 + R_3 + R_7)^2} + R_4$ (B)	278	296
保険リスク相当額 R1	10	12
第三分野保険の保険リスク相当額 R8	3	4
予定利率リスク相当額 R2	1	1
資産運用リスク相当額 R3	271	288
最低保証リスク相当額 R7	—	—
経営管理リスク相当額 R4	5	6
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	9,955.5%	9,677.2%

(注) 上記は、保険業法施行規則第86条、第87条、第161条、第162条、第190条及び平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。

1 1. 特別勘定の状況

該当事項がないため記載を省略しております。

1 2. 保険会社及びその子会社等の状況

該当事項がないため記載を省略しております。